

なくては木炭畫の稽古は出来ぬ、喰パンは粘々するやうに軟かでもいけぬ、ポロ／＼するやうに硬くてもいけぬ、製造されてから一日位たったのがよい。

△喰パンの代用として練ゴムを用ひられるが、これでも間に合はぬこともない、佛蘭西あたりには喰パンの代用品があつて、竹見屋へ来たこともあつたそうだが今は品切とのことである、尤も田舎などで喰パンを得られぬ土地では、蒸饅頭の皮でも役に立つ、餛飩粉を練つてやゝ硬くしたのも用ひられる。

△其他に木炭を拂ふ鳥の羽根、穂の硬い油繪筆、木炭の尖を細くするためのヤスリ紙、並びに畫架があればこれで萬端用意が出来たので、描て仕舞つからの跡始末即ち木炭を紙に定着させるため、ファイキサチフと霧吹とは缺くべからざるものである。

△次回には木炭で靜物寫生をする順序と方法とをお話しやう。(つゞく)

#### 水彩畫の繪具(その五)

學生用繪具でも差支なく使用されるものもあるが、中にはまるで色の異つてゐるのがある、エルローオークル、ヴァーミリオン、ニユートラルチント、エマラルドグリーン、ガンボーヂ、オレンヂ、ローズマダー、ピクマダーの類は殆ど用ひられぬ、コバルトも不透明で白が入つてゐるやうでよい色は出ぬ、ローズマダーの如きは普通壹圓もするのをタツタ五錢で賣るのであるから、テンデ其色が雲泥の相違を呈してゐる。

ラファエル會社の分は、ニユートン製的美術家用と殆ど同一のやうに思はれる、或は品質が勝つてゐるかも知れぬがまだ深く使用して見ぬ。村田や、花廼屋製の分は全く使用せぬから其良否を明言しがたいが、如何に愛國心がないと曰はれても、大切な製作をこれ等の繪具で描く氣になれない、無論中には充分使用に耐へる繪具があるには相違ないが、製法も不完全のやうに思はれるし、其價も比較的安くはないやうである。